

福岡市

埋蔵文化財遺跡地名表

第2集

——福岡市中部地域(御笠川以西)の
遺跡分布調査の概要——

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第9集



福岡市教育委員会

1970年

発刊のことば

本市の周辺は、古代文化発祥の地として、貴重な埋蔵文化財の無尽蔵な豊庫であります。都市開発の急速な進展にともない、き損のおそれある文化遺産の積極的な保護施策資料を整備するため、前年度より埋蔵文化財分布状況調査3ヵ年計画を策定し、国および県の補助を受け、九州大学文学部考古学研究室教官、民間研究者各位の協力により、第2年次の本年度は、中部地域（樋井川流域以東から那珂川、御笠川流域以西）の緊急調査を実施し、いちおうの成果を収めることができました。このことは、ひとえに関係各位の文化財に対するご理解とご協力によるものであります。この調査概要を郷土文化史研究の一資料として各分野で活用いただければ幸いです。

なお、本書の刊行にあたって、調査および原稿の執筆を担当された文化財専門員はじめ民間研究者各位、県教育委員会のご協力に対し深く謝意を表します。

昭和45年3月25日

福岡市教育委員会教育長
豊島延治

例 言

1. 本報告書は前年度より3ヵ年計画で行なっている埋蔵文化財分布調査の第2年次概報であり、調査は昭和44年度の事業として国および県の補助を受け、福岡市が実施したものである。
2. 本年度は福岡市の中部地域、すなわち、樋井川以東御笠川以西の地域を調査対象として埋蔵文化財の実態調査を行なった。なお計画の完結する明年度には福岡市全城の埋蔵文化財分布調査の成果が公刊される予定である。
3. 遺跡一覧表は前年度の継続として、IV区樋井川・油山・若久地区、V区那珂川・御笠地区に分類し、各地区ごとに時代順にまとめた。
4. 遺跡一覧表の中で、遺跡番号は西部地域の遺跡数の増加を考慮して、本年度は501番から記した。また、摘要欄中の数字は巻末の関係文献の数字と一致し参考文献をあらわすものである。遺跡名称の中でゴチック体で記したものはこれまで調査が行なわれ、報告書も刊行されているか刊行予定の遺跡、および重要なと思われる遺跡をあらわす。
5. 遺跡分布の概要の中で、かっこ内の数字は遺跡番号を示し、内内の数字は文献を示す。また図版・挿図説明文の終わりの数字は遺跡番号である。
6. 巷末の五万分の一地図に示す遺跡記号は、

先土器時代 □ 古墳時代（円墳他・群集墳） ○ ◎

縄文時代 △ 前方後円墳 ◇

弥生時代 ● 歴史時代 ×

であらわし、中部地域に隣接する筑紫郡那珂川町および同春日町の遺跡も可能な限り掲載した。

7. 本調査の遂行にあたっては、九州大学考古学研究室鏡山氏、岡崎敏、森貞次郎、小田富士雄の諸先生の指導のもとに、福岡市教育委員会文化財専門員塩屋勝利、柳田純孝、折尾学が、中原志外賀、深江嘉和、大神邦博、石井忠、石田慶喜男、武藤隆二、肥山正秀、相戸太の地元研究者諸氏の協力を得て調査を行なったが、福岡県教育委員会文化課および調査に便宜を与えた地元各位の御厚意に対しても深謝の意を表したい。とくに、深江嘉和氏は調査途上の昭和44年7月24日に他界されたが、ここに本書を捧げ、謹んで氏の御冥福を祈る次第である。

目 次

遺跡分布の概要	2 - 7
IV区樋井川・油山・若久地区	2
V区郡河川・御笠地区	6
IV区、樋井川・油山・若久地区遺跡一覧	9 - 13
縄文時代	9
弥生時代	9 - 10
古墳時代	10 - 13
歴史時代	13
V区、郡河川・御笠地区遺跡一覧	16 - 19
先土器時代	16
縄文時代	16
弥生時代	16 - 18
古墳時代	18 - 19
歴史時代	19
中部地域考古学関係文献目録	23 - 24

図 版 ・ 插 図

第1図 本年度調査地域と遺跡一覧表分類位置図	2
第2図 大牛田古墳群周辺ふ観図	3
第3図 柏原遺跡出土押型文土器拓影	4
第4図 樋井地区出土弥生式土器実測図	4
第5図 七隈第5号墳出土須恵器実測図	5
第6図 井手第3号墳出土須恵器実測図	5
第7図 刀塚古墳周辺ふ観図	6
第8図 菅弥郷遺跡出土石器実測図	7
第9図 野多目池遺跡遠景	8
第10図 野多目池出土石鎌、石匙	8
第11図 宝台遺跡C-8円形竪穴住居址	14
第12図 宝台遺跡14号竪棺出土状態	14
第13図 大牛田古墳群遠景	15
第14図 七隈5号墳須恵器出土状態	15
第15図 弥永团地西南遺跡出土鉢形土器	20
第16図 春住遺跡出土鉢形土器	20
第17図 諸岡遺跡貝釦着装人骨出土状態	21
第18図 諸岡遺跡出土貝釦	21
第19図 弥永团地遺跡出土磨製石剣	21
第20図 上ノ山遺跡出土鐵鏃	22
第21図 菅弥郷遺跡出土土師器	22

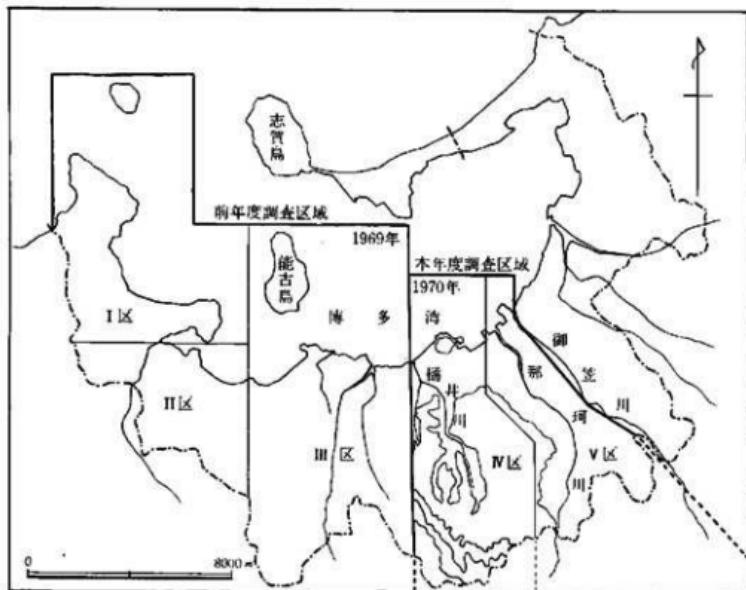
遺跡分布の概要

〈IV区・樋井川・油山・若久地区〉

福岡、佐賀両県を境してよこたわる背振山系に属する油山山塊は、北麓一帯に数多くの低平な丘陵群を細長く突出させているが、その東側には平尾丘陵(50-100m)が平和台付近まで伸びており、これらによって早良平野と福岡平野は地形的に分断されている。この油山北麓の谷間からは、いくつかの渓流が水源を発し、丘陵の間を抜けながら流れしており、樋井川はこれらの流れを集めて博多湾に注ぐ。流域には丘陵に囲まれるように若干の沖積地が発達しているが、西側の早良平野および東側の福岡平野に比較して異質な地形的条件を有している。IV区はこの樋井川流域地帯と平尾丘陵西側斜面すなわち、小笠・寺塚・若久・屋形原を結ぶ線の西側一帯が含まれる。

この地域は從来考古学的知見に乏しく、発掘調査例も皆無と言えるが、最近になって地域開発の進展に伴ない、発掘調査があいついで行なわれつつある。昭和44年9月から10月にかけては鞍馬遺跡(503, 532, 684)の発掘調査が、福岡市土地開発公社の要請により福岡市教育委員会の協力で行なわれ⑥、宝台遺跡(529, 530)の調査が、同年10月に日本住宅公團の宝台團地建設に伴なって行なわれた。また、同年6月には福岡大学校地拡張に伴ない七隈古墳群(555-561)が調査されている。さらに、11月から昭和45年3月までの長期間にわたり、住生住宅花畠ニュータウン建設のために大牟田古墳群(633-669)の発掘調査が行なわれている。このような地域開発に伴なう発掘調査は今後も長期にわたって続くことが予想されるが、このことはこの地域の埋蔵文化財の実態が、発掘によって白日のもとにさらされるという運命にあるとも言える。

つぎに、本年度の分布調査で得られたこの地域の道路分布の状況を概観してみよう。まず縦文時代の遺跡であるが、11か所検出できた。油山北麓の溜池畔や平尾丘陵に、まばらではあるが土



第1図 本年度調査地域と遺跡一覧表分類位置図
(IV区は樋井川・油山・若久地区、V区は那珂川・御笠地区)



第2図 大牟田古墳群周辺図

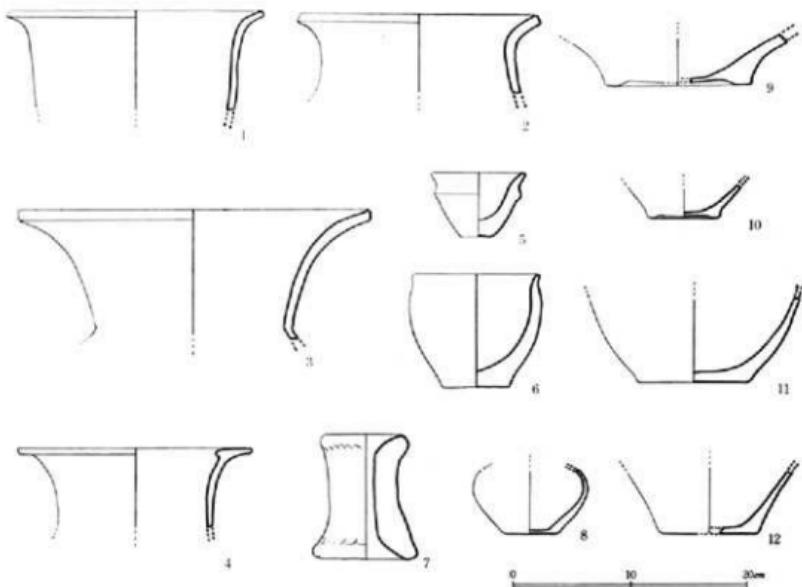
器や石器の散布が認められる。しかしながら、遺跡の密度はきわめて稀薄であり、しかも層位の出土する例は皆無であり、石器に比べて土器はきわめて少ない。時期的には、早期から晩期までの遺跡が点在し、この地域が縄文時代全期間を通して生活空間となり得たことを示しているが、その過程を具体的に把握するには今のところ資料不足である。この地域の縄文時代の解明は、遺跡密度および遺跡立地の把握と遺物の聚成、それに地質学、土壤学、植物学などの自然科学を動員した自然環境の復原とともに始めなければならない。

次の弥生時代になるとこの地域も遺跡数は増加する。友泉山手遺跡(515)、神松寺遺跡(520)などを上限として前期も中葉以降から始まり、良平野における有田遺跡(註1)、福岡平野における板付遺跡(註2)のような夜白式土器と板付I式土器を共伴する時期の遺跡は、現在までこの地域には知られていない。しかしながら、この地域にも中期末～後期初頭の時期には丸尾台遺跡(536)で知られるように、前漢鏡および鉄製利器を副葬しうる被葬者層が出現する。けれども、丸尾台遺跡に示される被葬者の出現は、単に樋井川水系を中心とするこの地域の、水稻農耕生産による生産力発展を土台とした共同体内の構造的変化を表わすものとして理解されるのであろうか。この問題については十分に吟味されねばならず、それには、他の地域の、たとえば糸島平野における三雲遺跡、福岡平野における須玖岡本遺跡の在り方とも比較して、この狭隘な地域を把握する方法が必要であると思われる。

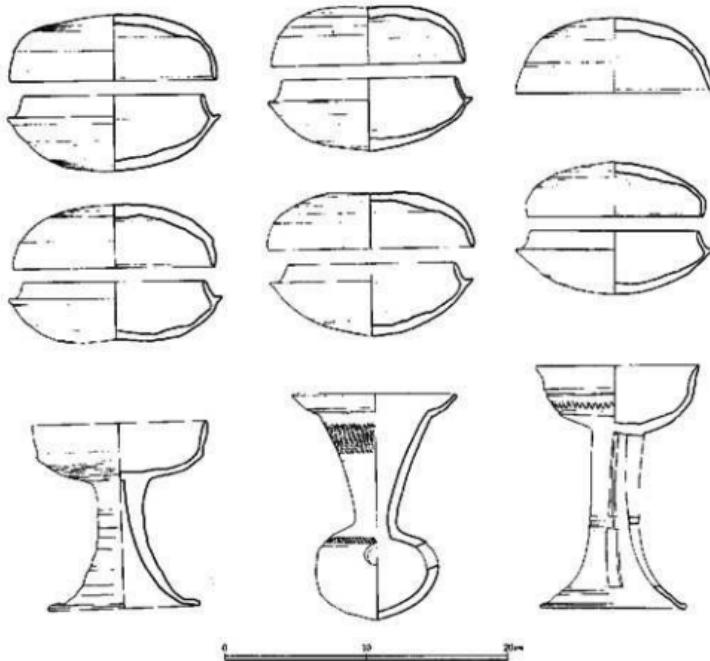
この地域の遺跡分布観で最も顕著な傾向を指摘できるのは、次の古墳時代でそれも後期から終末期にかけて油山北麓一帯の丘陵や谷間に大小の群集墳が築造されることである。現在発掘調査されている37基以上からなる大牟田古墳群(633～669)のような規模を有するものが、東油山から柏原に至る尾根間に築造されていたことは十分に推察され、土地の古老の記憶にもまだ残っている。しかしながら、宅地造成などの破壊度は早く、例えば四十塚古墳群のごとくその実数を明らかにすることは今では困難である。今後、本地域の考古学研究の一つの方向は、群集墳に反映されるところの社会構造の究明や、並葉遺跡および大牟田古墳群第7号墳下で認められた製鐵遺構(註2)に関連した研究が推し進められると思われる。



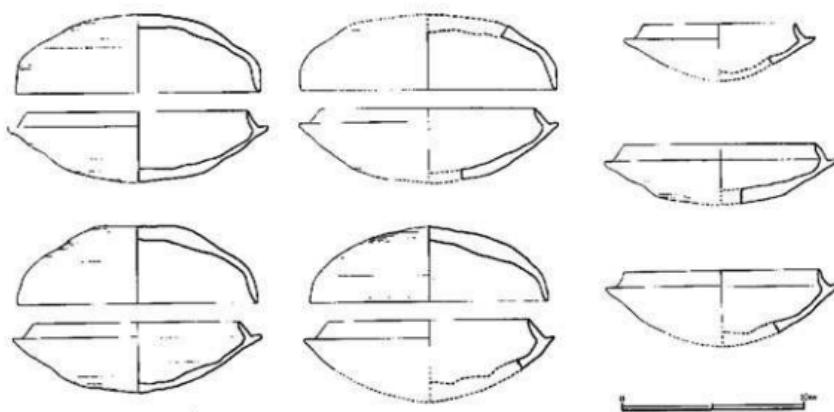
第3図 柏原遺跡出土押型文土器拓影 (510)



第4図 穂井地区出土弦生式土器
 (1~4は友泉山手遺跡、5~12は浦山遺跡、13は赤牟田池遺跡)
 (1,3~6は友泉山手遺跡(515) 7は赤牟田池遺跡(520) 2,8~12は浦山遺跡(524))



第5図 七隈5号墳出土須恵器実測図(559)



第6図 井手第3号墳出土須恵器実測図(578)



第7図 刀塚古墳周辺ふ観図

〈V区・那珂川・御笠地区〉

この区域は平尾丘陵東側斜面から御笠川以西の地域が含まれ、背振山系に水源を発する那珂川、および四王寺山塊、月隈丘陵の流れを集める御笠川流域一帯の、いわゆる福岡平野と称される地域である。この両河川によって形成された河岸段丘および広大な沖積地は、農耕社会の生産基盤として、きわめて有利な地理的条件を与えたことは確実であり、そのことはこの地域の濃密な弥生式時代遺跡の分布によって示されるであろう。

この地域を遺跡分布の密度から区分するならば、平尾丘陵東側斜面の野間・三宅の一帯と、春日丘陵の一部である日佐原から雑飼隈にかけての一帯、御笠川中流左岸の板付・諸岡地帯、および那珂川・御笠川に挟まれた竹下・比恵の低台地上一帯の四つの遺跡地帯に分けられよう。このうち平尾丘陵東側斜面の区域は、IV区と接しており、V区の縄文時代遺跡の大部分が認められやはり池畔や丘陵斜面に石器を中心とした遺物の散布地が存在する。野多目池縄文遺跡(692)はその好例であり、縄文時代遺物と共に弥生式土器や太形蛤刃石斧などが採集されている。特に注目してよいのは細形銅矛を出土した岩野遺跡(703)で、やはり銅矛を出土した野間門の浦⑤(その出土状況については現在まで確認されていない)および、高富八幡宮所蔵の銅矛・銅戈鉢型と共に、この地帯の弥生時代青銅器に一つの資料を提供するものであり、より緻密な地域研究を行なう上で貴重な資料となろう。

ところで、他の3つの遺跡地帯は、これまでに個人的あるいは組織的に調査があいついで行なわれたところであり、個々の遺跡についての報告は少なくない。特に板付遺跡(739)の発掘は、わが国水稻農耕社会の幕明けを告げ、この地域が最も先進的な地域の一つであり、階級社会への道をつき進む原動力としての農耕生産の定着を明らかにしたところとしてこの地域を位置づける。

この板付遺跡と同様に、夜白式土器と板付I式土器を共伴する遺跡は、環濠住居址として著名な比恵遺跡(761・762)と同じ台地に立地する春伊遺跡(768)でも認める事ができる。しかしながら、この時期以前の状態は不明な点が多く、この地域の縄文時代遺跡の現状に対して弥生時代遺跡の密なる理由、換言すれば、この地域における縄文時代から弥生時代への移行過程の具体的な把握は今後有待たねばならない。また、前期末の時期とされる板付田端遺跡(740)の豪棺内に細形銅矛、銅劍を副葬した被葬者の存在は、次の中期になると諸岡遺跡(738)でも知られるようになり、その頂点は春日町須玖岡本遺跡に示される。この板付→諸岡→須玖岡本を結ぶ線は、水稻農耕定着以後におけるこの地域の中心地移動を推測させるものであると同時に、前期末以降における生活空間拡大過程の一つの型であろう。しかしながら、現在的に遺跡数の増大という現象の中に推測される弥生時代における生活空間の拡大が、どのような社会関係の変化においてなされたのかという問題の具体的な解決は、個々の遺跡の構造的な把握と、遺跡と遺跡との関係のうちになされねばならないと思われる。巻末の遺跡分布図は、そうした観点をも意図したものであるが、最終報告にはさらに、遺跡立地および遺跡の性格をより視覚的に表わすよう努力したいと思う。

さて、弥生時代から古墳時代にかけての時期の遺跡は、それ以前の時期のものに比してあまりはっきりしていない。ただ、弥永原遺跡(723)、日佐原遺跡(724)があげられよう。また、弥永原遺跡と同一丘陵上の北方に存在する上ノ山遺跡(726)から、この時期に属すると思われる鐵鏃(第20図)が地表下50cmの深さにおいて出土し、その遺跡は今も畠地として残されていることは注意されてよい。また、その丘陵西方にある警弥郷部落周辺の畠地(現在は耕地整理のためほとんど水田化)からは、弥生時代前期から古墳時代に至る遺物が検出され、現在もなお包含層が存在し看過され得てはならない地帯であろう。

ところでこの地域の古墳分布を見ると、IV区とは異なり、前方後円墳が存在する。老司古墳(785)は竪穴式石室に墓道を付加するという特異な構造を有し、大陸からの横穴式石室導入の初期的なものとされ(5)、刺塚古墳(802)は平野に築造された後期の前方後円墳である。もう一つIV区と異なる点は顯著な群集墳を指摘できない点であるが、IV区と接する平尾丘陵上には相当数の群集墳が築造されていたと考えられる(5)。又、福岡市域外の那珂川町の丘陵地帯や明年度の分布調査地域に含まれる月隈の丘陵一帯にも群集墳は存在し、その時期にはこの地域の農業生産の場が、より拡大されていたことが推測される。

いずれにせよ、この地域の古墳時代の特質は、那珂川町から春日町およびこの地域に存在する前方後円墳から考えて、弥生時代から古墳時代への移行過程がはっきりとたどられないにしろ、那珂川、御笠川を媒介とする水稻農耕生产力の発展を土台とした在地豪族の権力伸長の姿を如実に示すものとして理解されよう。

— 註 —

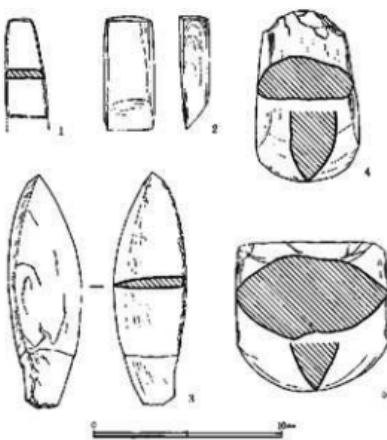
(1)福岡市教育委員会「有田遺跡」1968年

(2)三島格氏の教示による。

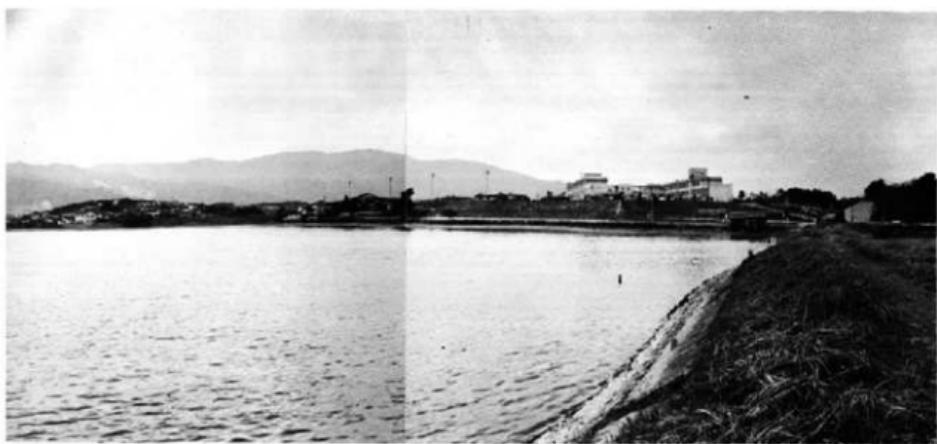
(3)中原忠外園氏による。木遺跡及び遺物に

ついては、後日、氏によって報告がなされる予定。

(4)渡辺正夫氏による。



第8図 警弥郷遺跡出土石器実測図
〔1~4は第2遺跡(717) 5は大津崎遺跡(720)〕



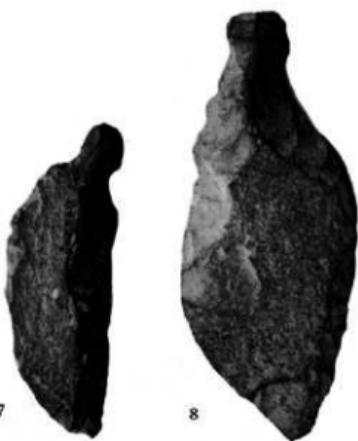
第9図 野多目池遺跡遠景



第10図 野多目池遺跡出土
石鏽、石匙(692)



1～4…石鏽（黒曜石）
5～6…フリフリ（サヌカイト）
7～8…石匙（サヌカイト）



IV区. 楠井川・油山・若久地区遺跡一覧

縄文時代

対照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
501	大塚公園遺跡	大塚公園内	池内	散布地	阿高式土器片	中期	几大、筑紫丘高 校遺
502	平和台遺跡	平和台	丘陵斜面	散布地	押型文土器片	早期	①
503	椎栗遺跡	坂 椎栗池	池畔	散布地	上器、石簇	晚期	⑥
504	東七隈遺跡	七隈 東七隈	池畔	散布地	曾畠系土器、石 簇	前期	
505	駒ヶ原遺跡	東油山 駒ヶ原	丘陵	散布地	石錐		
506	若久遺跡	若久	丘陵	散布地	土器、石錐、石 點、石斧	中期	
507	八田池遺跡	若久 東若久	池畔	散布地	磨製石斧		
508	中尾遺跡	屋形原1128	丘陵	散布地	土器、石錐、石 斧	早期、 後期	
509	箱ノ塚遺跡	柏原 古野	池畔	散布地	押型文土器、石 點、石斧、石錐	後期～ 晚期	
510	柏原遺跡	柏原1363の99	丘陵	散布地	押型文土器、石 錐、石斧	早期、 晚期	石井忠氏藏
511	大牟田遺跡	柏原 大牟田	丘陵谷間	散布地	土器	前期、 晚期	1969年12月～ 1970年3月 市教委調査

弥生時代

対照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
512	福岡城内道路 守台	半和台 福岡城跡天 守台	丘陵上	包含地、 墳墓	上器、石斧、柄 式石槍	中期	高野風庭氏藏、 市教委藏
513	六本松遺跡	六本松 陸軍墓地	丘陵上	墳墓	鐵槍		
514	田島遺跡	田島 オゴモリ	低丘陵端	包含地	土器	中期	③
515	友泉山手遺跡	友泉 山手町	丘陵上	包含地	蓋、壺、鉢		
516	柳原遺跡	柳原	丘陵	散布地	上器	後期	
517	下警固遺跡	下警固	丘陵	散布地	土器	前期	
518	茶山遺跡	茶山	丘陵	散布地	上器	前期～ 後期	
519	*	*	丘陵	散布地	土器	中期～ 後期	
520	神松寺遺跡	片江 神松寺	丘陵上	墳墓	鐵槍	前期末～中期	②
521	片江遺跡	片江	丘陵上	包含地、 ビット	鐵	中期	
522	片江発掘遺跡	*	丘陵上	墳墓	鐵槍	中期	②
523	天神遺跡	下長尾 天神	丘陵上	包含地	土器	中期～ 後期	
524	浦山遺跡	下長尾 浦山	丘陵上	住居址	土器、纺錘車	前期末～中期	
525	本村遺跡	下長尾 本村	丘陵上	墳墓	鐵槍	前期末	
526	八六宮遺跡	下長尾 八六宮	丘陵端	墳墓	柄式石槍		
527	上長尾遺跡	上長尾460	丘陵上	散布地	土器	前期末～中期	
528	御子神社遺跡	上長尾 御子神社	丘陵上	墳墓	鐵槍、柄式石槍		

封照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
529	宝台遺跡	上長尾 宝台	丘陵	住居址	玉、鏡、高杯、太形 輪刀石斧、石臼	中期	
530	"	" "	丘陵	墳墓	漆棺	中期	
531	横内遺跡	横内	水田	包含層	玉、鏡、高杯	中期	
532	笠森弥生遺跡	横内 笠森	丘陵、池畔	散布地	土器	中期	⑤
533	鬼ノ木遺跡	横内 鬼ノ木	丘陵	住居址	土器	中期	
534	"	" "	丘陵	墳墓	輪式石棺		
535	島廻り遺跡	横内 島廻り	丘陵	散布地	土器	中期	
536	丸尾台遺跡	上長尾 丸尾	丘陵	墳墓	漆棺、内行文 鏡3面、素環頭 刀1口	中期末	
537	鷺田池遺跡	星形原 鷺田	池畔	散布地	土器、黑曜石	後期	
538	猪ノ池弥生遺跡	柏原 古野	池畔	散布地	土器	後期	
539	中ノ原遺跡	花畑 中ノ原	丘陵	包含層	土器	中期	
540	花畑遺跡	花畑	丘陵	散布地	土器	中期	
541	赤牟田池遺跡	赤原 赤牟田池	池畔	包含地	土器、器台	中期	
542	若久開地遺跡	若久 若久開地	丘陵	包含地	土器、石器	中期	
543	"	" "	丘陵	墳墓	漆棺、輪式石棺	中期	
544	若久遺跡	若久41番地	丘陵	墳墓	漆棺	中期	
545	若久小学校校庭遺跡	若久 若久小学校	丘陵	散布地	土器、石器	中期~後期	
546	若久綠園遺跡	若久 緑園	丘陵	散布地	土器	後期	
547	東若久遺跡	若久 東若久	丘陵	墳墓	漆棺	中期	
548	上若久遺跡	若久 上若久	丘陵		土器	後期	

古墳時代

封照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形・標高	墳形・性質 ・径	内部主体	出土遺物	摘要
549	京ノ隈遺跡	田島 京ノ隈	丘陵 20m	墳墓	輪式石棺	人骨	破滅
550	大牟田池遺跡	田島 大牟田池	池畔	包含層		土師器 上歸壺	
欠	田島遺跡	田島					田島編付近 より副島氏 採集、山教 委採査
551	北片江遺跡	片江 北片江	丘陵先端	散布地		土師器、環 状器	
552	松ヶ浦遺跡	下長尾 松ヶ浦	丘陵	住居址		上歸壺、壺 等	
553	浦山遺跡	下長尾 浦山	丘陵	包含地		土師器	
554	神松寺古墳	片江 神松寺	丘陵 22m	円墳 15m	横穴式石室?	土師器	
555	七隈古墳群1号墳	福岡大学内	丘陵 38m	円墳	横穴式石室	須恵器	
556	" 2号墳	"	" 45m	"		"	
557	" 3号墳	"	" 39m	"		"	
558	" 4号墳	"	" 36m	"	横穴式石室	須恵器、金 環	1~6号 墳は破滅
559	" 5号墳	"	" 32m	" 15m	"	須恵器、鐵 器、管玉、 小玉	
560	" 6号墳	"	" 36m	" 20m	横穴式石室 (單室)	須恵器、土 師器、小玉	
561	" 7号墳	"	" 45m	"			
562	白峰寮内古墳	福岡大学白峰寮	丘陵 25m	円墳 10m	横穴式石室		
563	早苗田古墳群1号墳	片江 早苗田	丘陵 35m	円墳	横穴式石室		
564	" 2号墳	"	" 50m	"	"		
565	" 3号墳	"	" 47m	"	"		

対照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形・標高	墳形・性質	内部主体	出土遺物	摘要
566	早苗田古墳群4号墳	片江 早苗田	丘陵 45m	円墳	横穴式石室		
567	" 5号墳	" "	" 42m	"	"		
568	" 6号墳	" "	"	"	"		
569	瀬戸内古墳群1号墳	東油山 濑戸内	丘陵 52m	円墳			
570	" 2号墳	" "	" 52m	"	横穴式石室	須恵器、金環 須恵器(杯、壺)	
571	" 3号墳	" "	" 45m	"	"		
572	" 4号墳	" "					この4基は 破壊されて おりかろう として数を補 記したのみ
575	" 7号墳						
576	井手古墳群 1号墳	東油山 井手	丘陵 32m	円墳	横穴式石室		
577	" 2号墳	" "	" 33m	"	"		
578	" 3号墳	" "	" 35m	"	"		
579	" 4号墳	" "	" 29m	"	"		
580	駒ヶ原古墳群 1号墳	東油山 駒ヶ原	丘陵 36m	円墳 10m	横穴式石室 (单室)		
581	" 2号墳	" "	" 50m	" 10m	"		
582	" 3号墳	" "	" 53m	" 15m	横穴式石室		
583	" 4号墳	" "	" 47m	"	" (单室)		
584	" 5号墳	" "	"	"	横穴式石室		墳域
585	" 6号墳	" "	"	"	"		"
586	" 7号墳	" "	" 48m	" 5m	"		
587	" 8号墳	" "	" 66m	" 12m	"		
588	" 9号墳	" "	" 65m	" 12m	"		
589	大平寺古墳群 1号墳	柏原 大平寺	丘陵 37m	円墳	横穴式石室 (单室)		石室半城
590	" 2号墳	" "	" 37m	"			
591	" 3号墳	" "	" 37m	"			
592	" 4号墳	" "	" 40m	" 20m			
593	" 5号墳	" "	" 46m	" 15m	横穴式石室 (单室)		
594	" 6号墳	" "	" 46m	" 15m	"		
595	" 7号墳	" "	" 45m	" 10m	"		
596	" 8号墳	" "	" 48m	"			
597	柏原古墳	柏原 舟塗試験場	丘陵 28m	円墳	横穴式石室	子持高杯、 高杯、杯、 壺、壺	③
598	上原古墳	柏原 上原	丘陵 32m	円墳	横穴式石室		
599	糖塗古墳群 1号墳	柏原 糖塗	丘陵 70m	円墳 4m	横穴式石室 (单室附掘)		
600	" 2号墳	" "	" 72m	" 20m	横穴式石室		
601	岩流古墳	柏原 岩流	丘陵 55m	円墳	横穴式石室		
602	荒谷古墳群 1号墳	柏原 荒谷	低台地 40m	円墳	横穴式石室		
603	" 2号墳	" "	" 55m	"	"		
604	" 3号墳	" "	" 60m	"	"		
605	" 4号墳	" "	" 65m	"	"		
606	中島須恵器窯址	柏原 中島	丘陵 35m	窯址		杯、高杯	
607	四十塚古墳群 1号墳	柏原 四十塚	丘陵 36m	円墳 10m	横穴式石室 (单室)		
608	" 2号墳	" "	" 45m	" 20m	横穴式石室		
609	" 3号墳	" "	" 46m	" 16m	横穴式石室 (单室)		
610	" 4号墳	" "	" 48m	" 8m	横穴式石室		墳域
611	" 5号墳	" "	" 45m	" 8m	"		"

対照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形・標高	墳形・性質・径	内部主体	出土遺物	摘要
612	四十塚古墳群6号墳	柏原 四十塚	丘陵 47m	円墳 8m	横穴式石室 (单室)		
613	# 7号墳	#	# 50m	# 15m	横穴式石室		
614	# 8号墳	#	# 52m	# 8m	#		
615	# 9号墳	#	# 54m	# 8m	#		
616	# 10号墳	#	# 60m	# 8m	#		
617	# 11号墳	#	# 56m	#	#		
618	# 12号墳	#	# 60m	#	#		
619	# 13号墳	#	扇状地55m	#	#		
620	# 14号墳	#	# 55m	#	#		
621	# 15号墳	#	# 56m	# 15m	横穴式石室 (单室)		
622	# 16号墳	#	# 58m	# 15m	#		
623	# 17号墳	#	# 57m	# 15m	#		
624	# 18号墳	#	# 56m	# 15m	#		
625	# 19号墳	#	# 56m	# 15m	#		
626	# 20号墳	#	# 59m	# 15m	#		
627	# 21号墳	#	丘陵 50m	# 20m	横穴式石室		
628	# 22号墳	#	#	#	#		
629	# 23号墳~	#					
631	# 25号墳						
632	四十塚須恵器窯址	柏原 四十塚	丘陵 36m	須恵器窯址			半焼
633	大牟田古墳群1号墳	柏原 大牟田	丘陵頂部 70m	円墳 10m	横穴式石室 (单室)	須恵器、銅鏡	1969年12月 ~1970年3月市教委発掘調査。本 表作製時には、発掘調査 途中で、詳細は発掘調 査報告書を 参照。
634	# 2号墳	#	丘陵斜面 50m	# 15m	#		
635	# 3号墳	#	# 45m	方墳 ? 15m	#		
636	# 4号墳	#	# 45m	方墳 ? 15m	#		
637	# 5号墳	#	# 50m	円墳 15m	#		
638	# 6号墳	#	# 50m	# 15m	#		
639	# 7号墳	#	# 58m	# 15m	#		
640	# 8号墳	#	# 47m	# 10m	#		
641	# 9号墳	#	# 50m	# 10m	#		
642	# 10号墳	#	# 55m	# 10m	#		
643	# 11号墳	#	丘陵上65m	# 10m	#		
644	# 12号墳	#	# 69m	# 15m	#		
645	# 13号墳	#	# 69m	# 10m	#		
646	# 14号墳	#	丘陵谷間 47m	# 10m	横穴式石室 (複室)		
647	# 15号墳	#	丘陵頂部 63m	#	横穴式石室 (单室)		
648	# 16号墳	#	丘陵谷間 48m	#			
649	# 17号墳	#	# 107m		横穴式石室 (单室)		
650	# 18号墳	#	# 110m	円墳	横穴式石室		
651	# 19号墳	#	# 118m	#	#		

対照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形・標高	造形・性質・径	内部主体	出土遺物	摘要
652	大牟田古墳群20号墳	柏原 大牟田	丘陵谷間 110m	円墳	横穴式石室		
653	# 21号墳	#	# 110m	"	"		
654	# 22号墳	#	# 120m	"	"		
655	# 23号墳	#	# 125m	"	"		
656	# 24号墳	#	# 130m	"	"		
657	# 25号墳	#	# 105m	"	"		
658	# 26号墳	#	# 100m	"	"		
659	# 27号墳	#	丘陵斜面 52m	"	"		
660	# 28号墳	#	# 55m	"	(複室)		
661	# 29号墳	#	# 52m	"	"		
662	# 30号墳	#	# 70m	"	"		
663	# 31号墳	#	# 51m	"			
664	# 32号墳	#	# 52m	"			
665	# 33号墳	#	# 52m	"			
666	# 34号墳	#	# 54m	"			
667	# 35号墳	#	# 55m	"			
668	# 36号墳	#	丘陵上63m	"	横穴式石室 (单室)		
669	# 37号墳	#	# 63m	"	"		
670	大牟田製鉄遺跡	柏原 大牟田	丘陵谷間	炉址			第7号墳丘 下に2基(6 C代)発見。 周辺にまだ 存在する可 能性がある。 古墳~歴史 時代にかけて の時期と 推定される。
671	柏ノ池遺跡	柏原 柏ノ池	池畔	墳墓	箱式石棺		付近に須恵器、土師器 の散布が見 られる。
672	柏原古墳群1号墳~ 4号墳	柏原 柏ノ池南	丘陵斜面	円墳			宅地造成の ため壊滅
675							
676	# 5号墳	#	# 45m	" 10m	横穴式石室 (单室)		
677	# 6号墳	#	# 60m	" 15m	横穴式石室		
678	鷲田池古墳	犀原形 鷲田	丘陵頂部 40m	円墳			
679	寺塚穴観音古墳	寺塚二丁目	丘陵 30m	円墳	横穴式石室		④ 宅地造成の ため壊滅
680	野間大池古墳群 1号墳~3号墳	寺塚 野間大池 北側	丘陵	円墳			
682							

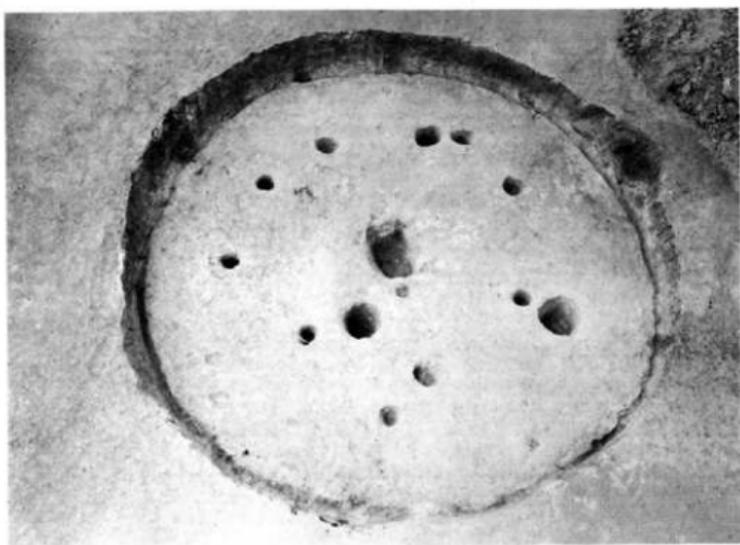
歴史時代

対照番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
683	鷲越館址	平和台	丘陵	館址	古瓦類、少 將鏡	奈良~中世	⑦⑧⑨⑩
684	菅原製鉄遺跡	横内 菅原	池畔	製鐵址	須恵器、土 師器、鐵滓 須恵器、土 師器	奈良	⑥
685	大平寺遺跡	柏原 大平寺	沖積地	散布地		奈良~中世	④付近より 板瓦が出土

第11図

宝台遺跡C-5円形竪穴住居址

(529)



第12図

宝台遺跡14号甕棺出土状態

(530)





第13図 大牟田古墳群遠景(部分)



第14図 七瀬5号墳須恵器出土状態(559)

V区、那珂川・御笠地区遺跡一覧

先土器時代

対照番号	遺跡名跡	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	摘要
686	諸岡遺跡	諸岡 岩の前	丘陵	散布地	ナイフブレイド	中原志外原氏墓
687	日佐原遺跡	上日佐 日佐原 福岡女子学院構内	丘陵	散布地	ナイフ型石器	⑤

縄文時代

対照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
688	南大橋遺跡	南大橋	丘陵	散布地	石鏃		
689	川底池遺跡	和田 田底池	池畔	散布地	上器、石鏃	後期	
690	和田縄文遺跡	和田110番地	丘陵	散布地	石斧		
691	浦ノ池遺跡	野多目 浦ノ池	池畔	散布地	土器	後期	
692	野多目池縄文遺跡	野多目 池	池畔	包含地	土器、石鏃、石斧、石匙	晩期	
693	老司池遺跡	老司 老司池	池畔	散布地	石鏃、七器	前期	
694	舞鶴城縄文遺跡	舞鶴町 芙蓉	丘陵	散布地	石鏃 (サヌカイ下製)		東京国立博物館
695	堀内遺跡	那珂町 堀内	舌状台地 先端	散布地	土器	夜臼式	城

弥生時代

対照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
696	平尾小学校校庭遺跡	平尾 平尾小学校	丘陵	墳墓	斐棺	中期～後期	ブルル建設の際出土。平尾小学校
697	高宮八幡遺跡	高宮 高宮八幡宮	丘陵	包蔵地	銅矛、銅戈	後期	
698	高宮遺跡	高宮 五丁目	丘陵	包含地	七器	後期	④ ⑤
699	中村町遺跡	野間 中村町	丘陵	包含地	土器	後期	
欠	野間遺跡	野間 門ノ浦201			中継銅矛	中期～後期	東京国立博物館
700	足方池遺跡	野間 神田町	丘陵	散布地	七器	後期	
701	東和大学構内遺跡	野間 東和大学構内	丘陵	散布地	土器、石盾、石鏃	中期	
702	筑紫丘中学校校庭遺跡	野間 筑紫丘中学校	微高地	墳墓、包含地	船式石棺、七器	中期～後期	石井忠氏藏
703	岩野遺跡	三宅岩野1246	丘陵	墳墓	斐棺、細形銅矛	中期	福岡中央高校藏
欠	三宅遺跡	和田 田底池	池畔	散布地	石包丁	後期	
704	田底池先端遺跡	和田 田底池	池畔	散布地	土器	中期～後期	
705	中尾池遺跡	和田 中尾池	池畔	散布地	上器	中期～後期	
706	和田天満宮遺跡	和田 天満宮	丘陵	包含地	壺	中期	
707	和田天満宮斐棺遺跡	和田 天満宮	丘陵	墳墓	斐棺	前期～中期	
708	和田第1遺跡	和田	丘陵	墳墓	石蓋土塗		
709	# 第2遺跡	和田110	丘陵	散布地	土器	中期～後期	
710	野多目遺跡	野多目 野多目池	池畔	散布地	上器、石斧、石鏡	中期	
711	# 第2遺跡	野多目 野多目池	池畔	散布地	土器、石斧	中期	
712	# 第3遺跡	野多目 野多目池東岸	丘陵先端	包含地	土器 (壺壺式)	中期	
713	老司池弥生遺跡	老司 老司池	池畔	散布地	石錐	後期	
714	高柳遺跡	碧海郡 高柳	低台地	墳墓	土器	前期	
715	背振神社遺跡	碧海郡 背振神社	微高地	墳墓	斐棺	前期末	
716	背振郡第1遺跡	碧海郡	冲積地	包含地	石器、偏平片刃刀 石斧、石鏡	前期	1969年夏岐地整理 が行われた際多数の

封照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
717	磐弥郷第2遺跡	磐弥郷	沖積地	包含地	土器、挿入石斧、偏平片刃石斧、柱状石斧、石磨丁、纺锤車、石劍形石製品	前期	遺物が出土したなお水田の排水溝下に遺物の包含層は残る。
718	# 第3遺跡	磐弥郷	沖積地	包含地	石斧、土器、石斧、纺锤車、石劍	後期	遺物は瀬邊正夫、大賀經各氏氏日佐公民館蔵
719	荒牟田遺跡	磐弥郷 荒牟田	微高地	包含地	土器(高杯、釜、甕)	前期	
720	大津崎遺跡	磐弥郷 大津崎	沖積地	包含地	石斧	後期	
721	弥永原地遺跡	弥永原 地	低古地	包含層	音形器台	後期	
722	弥永原地西南遺跡	弥永原 弥永原地西	沖積地	包含層	磨製石剣	後期	日佐公民館蔵
723	弥永原遺跡	磐弥郷 弥永原	低古地	住居址	鉢形土器、石器	前期	
724	日佐原遺跡	日佐 日佐原 福岡女学院構内	低古地	墳墓	土器、石斧、内行花文陶輪、ガラス製勾玉鋸型、網格	中期～後期	◎ ◎
725	日佐原宿跡	日佐原 福岡女学院附属幼稚園	低丘陵	墳墓	箱式石棺、石蓋土坑、瓦豆子塚	後期	◎ ◎
726	上ノ山遺跡	上ノ山 佐上ノ山	低丘陵	包含地	土器、鐵鏟	後期～木一	瀬邊正夫氏蔵
727	有尻地神社遺跡	井尻 地神社	低丘陵	住居址	土器、鐵鏟	中期	二奈木小学校蔵 ◎ ◎
728	井尻柴原遺跡	井尻 柴町	微高地	散布地	土器、磨製石器	中期	
729	安町妻椎遺跡	井尻 安町	微高地	墳墓	鐵格	中期	
730	井尻遺跡	井尻 妻椎現附近	微高地	墳墓	銅矛鋸型	◎ ◎	
731	姫熊限遺跡	姫熊限	低古地	住居址	箱式石棺	後期	◎ ◎
732	波辺鉄工所遺跡	波辺鉄工所	低古地	住居址	土器	後期	
733	南八幡町遺跡	美野南八幡町10丁目	低高地	墳墓	鐵格、石蓋土坑	後期	
734	友野1丁目遺跡	友野 1丁目	低高地	包含層	土器	後期	
735	友野3丁目遺跡	友野 3丁目	低高地	包含層	土器	後期	
736	友野6丁目遺跡	友野 6丁目	低高地	包含層	土器	後期	
737	井相田遺跡	井相田261	低高地	独立丘陵	土器、高杯	後期	
738	諸岡遺跡	諸岡 国ノ前	低高地	独立丘陵	土器、高杯	中期	
739	板付遺跡	板付 通津寺境内	微高地	環溝住居址	土器、石磨丁、磨製石斧類、擦製石器、打製石器、炭化米、穀殼、貝殻、纺锤車、網矛(5)	前期初～中期	河和28・29年頃 志浪社社立工事の際、出土。文华丘高校、龜井勇氏、高田一弘氏蔵 ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
740	板付田端遺跡	板付山道608	微高地	墳墓	土器、箱形銅劍(3)、纏形銅矛(3)	前期末	東博藏 ◎ ◎ ◎ ◎
741	板付農場遺跡	板付 農場	微高地	包含層	土器	前期	
742	板付2丁目遺跡	板付 2丁目	微高地	包含層	石磨丁	中期	
743	板付3丁目遺跡	板付 3丁目	沖積地	包含層	土器	中期	
744	板付5丁目遺跡	板付 5丁目	微高地	包含層	銅矛鋸型、石劍、土器	中期～後期	
745	妙楽寺遺跡	五十川 紗楽寺境内	微高地	散布地	土器、石器、纺锤車	中期～後期	銅矛鋸型は真指定文化財、妙楽寺藏 ◎ ◎
746	五十川斐松渕遺跡	五十川	微高地	墳墓	土器	後期	
747	後田遺跡	五十川 後田	微高地	包含層	高杯	後期	
748	那珂町遺跡	那珂町7組	微高地	散布地	石器	後期	宮竹公民館蔵
749	宮園遺跡	那珂町 宮園	微高地	包含層	土器	後期	
750	宮園遺跡	那珂町 宮園	微高地	散布地	磨製石斧	後期	
751	沼口遺跡	那珂町 沼口	微高地	散布地	土器、石器、纺锤車	中期～後期	
752	那珂幼稚園遺跡	那珂町 沼口	微高地	包含層	土器	後期	那珂八幡古墳 裾部より出土。
753	那珂八幡遺跡	那珂町 那珂八幡境内	微高地	包含層	銅矛鋸型	中期～後期	真紫正高校蔵 ◎ ◎

对照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
754	宮下遺跡	那珂町 宮下	微高地	包含層	土器 石庖丁	中期	
755	多松工業前遺跡	那珂町 東光寺	微高地	散布地	土器	後期	
756	東光寺町遺跡	東光寺町634	微高地	墳墓	土器 石庖丁	中期	
757	扇町遺跡	扇町1の2	微高地	散布地	土器 石庖丁	中期	
758	竹下西町遺跡	竹下西町204	微高地	包含地	土器 石庖丁、磨製石斧	後期	
759	竹下白土遺跡	竹下 白土	微高地	包含地	土器 石庖丁、磨製石斧	後期	
欠	竹下駅北方		獣穴		炭化米		◎
760	神田町遺跡	神田町47	微高地	散布地	土器	後期	
761	比恵遺跡	比恵 小林町563	微高地	遺跡性居址	土器	中期	県指定、史跡◎
762	比恵遺跡	比恵 古賀	微高地	環溝作成地、石塁	土器 塚棺	中期	◎
763	小林町遺跡	比恵 小林町111~543	微高地	包含地	土器 石庖丁	中期	
764	小林町妻宿遺跡	比恵 小林町63	微高地	墳墓	土器	中期	
765	小林町市営住宅	比恵 小林町 市営住宅	微高地	包含地	土器	中期	
766	山王公園第1遺跡	山王町 三王公園	微高地	包含地	土器	中期	
767	山王公園第2遺跡	# #	微高地	散布地	磨製石斧		
768	春住遺跡	春住町11組	低台地	柱房法 包含層	壺、甕、鉢、石 庖丁、磨製石斧 類、石錠	夜臼式 板臼式	中原志外頭氏藏
769	春住遺跡	春住町1の347、2の 2、12の16、100、105	低台地	包含地 散布地	壺、甕、高杯、 石斧、石庖丁	中~後	中原氏藏
770	糸島橋遺跡	糸島 糸島橋下	川原	包含地	土器、磨製石斧、 石錠	前~中期	◎
771	博多駅東遺跡	博多駅東3丁目	沖積地	包含地	土器、磨製石斧、 石錠		
772	博多駅南遺跡	博多駅南町	沖積地	包含地	土器		
773	瑞穂町遺跡	瑞穂町	沖積地	包含地	土器		
774	馬場新町遺跡	馬場新町	砂洲	墳墓	土器		
775	住吉神社遺跡	住吉 住吉神社裏	砂洲	包含地	四牙、銅火	中期	高田一弘氏藏 ◎
776	鷹岡町遺跡	鷹岡町	砂洲	散布地	土器	後期	
777	呉服町遺跡	呉服町	砂洲	散布地	土器		

古墳時代

対照番号	遺跡名称	遺跡所在地	地形・標高	殻・性質	内部主体	出土遺物	摘要
778	平尾小学校庭古墳	平尾 平尾小学校	丘陵	円墳	横穴式石室	須恵器	埴輪、平底 小瓶
779	八反田古墳	平尾 八反田	丘陵	円墳	横穴式石室	須恵器	源正氣、 小川昌士雄 氏調査
780	野多日遺跡	野多日 福岡南 病院裏	丘陵	植込み	箱式石棺		
781	野多日池古墳群 1号墳~3号墳	野多日 池東岸	丘陵	円墳			古地造成の ためすべて 破壊
783							
784	卯内尺古墳	老司 卯内尺	丘陵	円墳	粘土構	三角錐形石 棺	鉄製品(農 工具、武器、 三角形石器 短甲)、玉類 (硬玉勾玉、 碧玉管、 ガラス製管 玉、硬玉管 玉)、鐵 製錐(7ヶ) 鐵 製錐(4ヶ) 鐵 製錐(3ヶ) 鐵 製錐(1ヶ) その他の 遺物
785	老司古墳	老司 少年院内	丘陵 50m	前方後圓墳 90m	前方後圓墳 90m	横穴式石室 前方部(1) 後圓部(3)	◎

対照 番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形・標高	墳形・性質・径	内部主体	出土遺物	摘要
786	老松神社古墳群 1号墳	老司 老松神社裏	丘陵	円墳			
787	" 2号墳	"	"	"			◎
788	" 3号墳	"	"	"			
789	" 4号墳	"	"	"			
790	" 5号墳	老司 少年院内	"	"			
791	老司 精式石棺墓跡	老司	丘陵	墳丘	箱式石棺	铁刀(1)、鐵石(2)	長住原明氏 宅の茶室壁 段の際出土 現在、延闊 の一部として復原保存。 長住氏庭
792	浦川古墳	浦田(一部那珂 川町)	丘陵	前方後円墳			国士館大調查 報告書 刊行予定。
793	雪谷郷遺跡	雪谷郷	沖積地	包含地		土師器(壺、 用、高杯、 器合)、滑石 製模量鏡	磐梯郡第2 遺跡(717) とはほぼ同じ 地点。大賀 健氏庭
794	井相田遺跡	井相田	沖積地	包含地		土師器、須 恵器	
795	諸岡占墳群 1号墳	諸岡 志魂社社 内	独立丘陵	円墳			この3基は 先端社建立 工事、地盤 造成のため 壊滅。
796	" 2号墳	"	"	"			
797	" 3号墳	"	"	"			
798	" 4号墳	"	"	円墳 20m			ほぼ完全に 残る。
799	" 5号墳	諸岡 大和正義 氏宅地内	丘陵端	" 20m		須恵器	
800	板付八幡古墳	板付八幡 境内	微高地		横穴式石室 (平室)		封土なし
801	那珂八幡古墳	那珂八幡	微高地	円墳 40m			◎
802	舞櫻古墳	竹下 舞日ヒー ル工場内	微高地	前方後円墳 80m	横穴式石室 (複室)	埴輪(円筒、 形象)	◎◎
803	山王町遺跡	山王町	微高地	包含地		土師器、須 恵器	

歴史時代

対照 番号	遺跡名稱	遺跡所在地	地形	遺跡の性質	出土遺物	時期	摘要
804	古野池遺跡	南大橋 古野池	池畔	散布地	須恵器、軒 丸瓦	奈良	
805	南大橋团地遺跡	南大橋 南大橋 川岸	丘陵	包含地	須恵器、土 器等、軒丸瓦、 軒平瓦	奈良	
806	岩野第1瓦窯址	三宅 岩野	丘陵	窯址	軒丸瓦、布 目瓦	平安	
807	岩野第2瓦窯址	"	"	"	軒平瓦	"	
808	三宅魔寺	三宅	微高地	寺院址		奈良	◎
809	筑紫官東址	三宅	"	銅社		"	◎
810	野多日池遺跡	野多日池	池畔	散布地	布目瓦	平安	
811	老司瓦窯址	老司 少年院内	丘陵斜面	窯址	軒丸瓦、軒 平瓦	奈良	◎◎
812	日吉神社遺跡	麦野 4丁目	微高地	散布地	須恵器、土 器等、青磁 白磁	中世	境内に嘉慶 三年銘の板 碑あり。
813	警察学校遺跡	井相川 警察学 校内	沖積地	包含地 (鉢址?)	鐵石、瓦、 古銭	中世?	
814	那珂中学校遺跡	那珂町 那珂中 学校	微高地	包含地	土師器(壺、 瓶、瓶)	奈良?	市教委藏
815	聖福寺遺跡	御供所町 聖福寺	沖積地	包含地	青磁、銀匙	中世	◎

第15図

弥永団地西南遺跡出土鉢形土器
(722)



第16図

春住遺跡出土鉢形土器

768

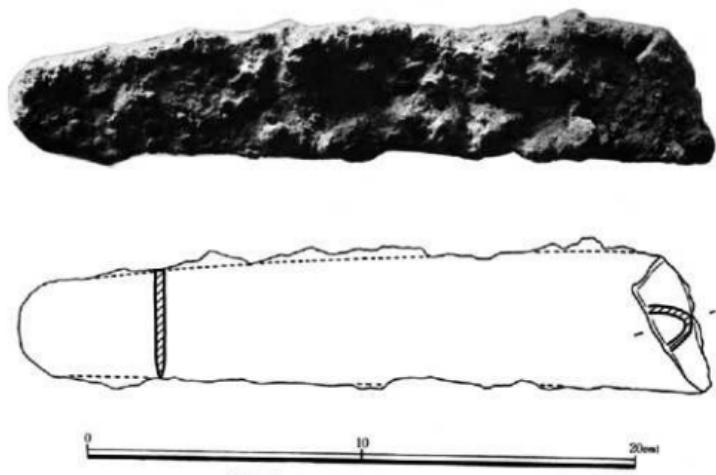
第17図 諸岡遺跡出土貝状
殻着装 (738)



第18図 諸岡遺跡出土ゴホウラ製貝鏡 (738)
※ 永井昌文博士査定



第19図 弥永製
團石地
遺跡出土
721



第20図 上ノ山遺跡出土鐵鎌(726)



第21図 蒼弥郷遺跡出土土器(783)

福岡市中部地域考古学関係文献目録

- ①『北九州古文化図鑑』第2輯、福岡県高等学校教職員組合 昭和25年
- ②水野清一・島田貞彦「北九州に於ける発掘調査報告(上)」人類学雑誌43-10 昭和3年
- ③渡辺正氣・後藤宗俊「福岡市大字柏原の一古墳」九州考古学7-8 1959年
- ④「高宮古墳」福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第一輯 大正14年
- ⑤貝原益軒「筑前鐵風土記」福岡県史資料続四編 昭和18年
- ⑥「福岡市並木古代製鉄遺跡発掘調査報告」福岡市土地開発公社 1969年
- ⑦小川富士雄「福岡市福岡城跡探査遺物調査報告書」福岡市教育委員会 昭和36年
- ⑧「史跡福岡城跡発掘調査概報」福岡県教育委員会 1964年
- ⑨中山平次郎「古瓦類叢考(一)」考古学雑誌6-4 大正4年
- ⑩小田富十郎「九州に於ける太宰府系古瓦の展開(一)」九州考古学1 1957年
- ⑪「太宰府古瓦展図録」観世音寺 昭和39年
- ⑫中山平次郎「九州北部に於ける先史原史向時代中期の遺物に就て(一)」考古学雑誌7-10 大正6年
- ⑬中山平次郎「九州北部に於ける先史原史向時代中期の遺物に就て(二)」考古学雑誌7-11 大正6年
- ⑭中山平次郎「銅鋸銅劍立に石劍発見地の遺物(下)」考古学雑誌8-9 大正7年
- ⑮中山平次郎「銅鋸銅劍の新資料」考古学雑誌7-7 大正5年
- ⑯中山平次郎「火薬を発見せる古代遺跡(一)」考古学雑誌11-1 大正9年
- ⑰「地獄天神社の銅鋸銅劍」福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第一輯 大正14年
- ⑱中山平次郎「井戸の弥生式遺跡」考古学雑誌14-12 大正13年
- ⑲中山平次郎「井戸及寺福童の変化」考古学雑誌17-12 昭和2年
- ⑳中山平次郎「筑前国筑紫郡都御駕駿駅近傍の堅穴」考古学雑誌7-3 大正5年
- ㉑中山平次郎「稚鈴隈駅付近に発見せる石蓋土塚と無蓋土塚」考古学雑誌21-9 昭和6年
- ㉒中山平次郎「焼米を出せる堅穴址」考古学雑誌14-1 大正12年
- ㉓鏡山猛「環濠住居址小論」史論58輯 昭和16年
- ㉔鏡山猛「日本原始聚落の研究」歴史16-3 昭和16年
- ㉕鏡山猛「原始階式石棺の姿相」史論25輯・27輯
- ㉖鏡山猛「變棺叢考(一)」史論53輯 昭和27年
- ㉗鏡山猛「北九州の古代遺跡」昭和31年
- ㉘森貞次郎・岡崎敬「福岡県板付遺跡」『日本農耕文化の生成』 昭和36年
- ㉙森貞次郎・岡崎敬「縄文晩期遺跡および板付弥生初期遺跡出土の土器上の焼付痕および炭化米の計測表」九州考古学15 昭和37年
- ㉚「板付遺跡」板付遺跡保存会 1968年
- ㉛水野清一・樋口隆康・岡崎敬「対馬」東亞考古学会 昭和28年
- ㉜森貞次郎「九州」「日本の考古学史」 昭和41年
- ㉝森貞次郎「青銅器の渡米」『世界考古学大系』2 昭和35年
- ㉞鏡山猛「共同墓地と厚葬の萌芽」『世界考古学大系』2 昭和35年
- ㉟「鎌範発見地名表」福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第一輯 大正14年

- ⑯鏡山猛・渡辺正氣「福岡市日佐原の弥生時代墓地」日本考古学協会第24回総会研究発表要旨
昭和34年
- ⑰『福岡県弥永原遺跡調査概報』福岡県教育委員会 1965年
- ⑱『福岡市弥永原遺跡調査概要』福岡市教育委員会 1967年
- ⑲『福岡県須玖・岡本遺跡調査概報』福岡県教育委員会 1963年
- ⑳梅原末治「日本上古の玻璃」史林43-1 1960年
- ㉑原田大六「日本古墳文化－那國王の環境－」 1954年
- ㉒森本六爾「筑前発見の磨製石器」「日本原始農業」 昭和8年
- ㉓『東光寺古墳』福岡県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第一輯 大正14年
- ㉔江藤正澄『椎葉二』 明治20年
- ㉕『福岡市老司古墳調査概報』福岡市教育委員会 1969年
- ㉖小田富士雄「九州に於ける太宰府系古瓦の展開(二)」九州考古学2 1957年
- ㉗小田富士雄「九州に於ける太宰府系古瓦の展開(三)」九州考古学5-6 1958年
- ㉘岡崎敬「福岡市(博多)型福寺発見の遺物について－大陸船載の陶磁と銀鉢－」『九州文化史研究』紀要13: 昭和43年
- ㉙『H佐のむかし』宮竹公民館 昭和43年
- ㉚『郷土の歴史を語ろう資料古代編』那珂公民館 昭和41年
- ㉛『郷土の歴史を語ろう資料第四集』那珂公民館 昭和44年
- ㉜『福岡県の文化財』福岡県教育委員会 昭和43年
- ㉝『福岡市とその周辺の文化財』福岡市教育委員会 昭和44年
- ㉞『全国遺跡地図(福岡県)』文化財保護委員会 昭和43年
- ㉟杉原莊介・小林行雄「弥生式土器集成本編I」 昭和35年
- ㉟鏡山猛『筑紫』 昭和44年
- ㉟『油田古墳群』福岡県文化財調査報告書第42集 昭和44年
- ㉟三島格「弥生時代における南海産貝使用の腕輪」「日本民族と南方文化」(金閣丈夫博士古稀記念論文集) 昭和43年

後 記

埋蔵文化財分布調査は現実的に二つの意味を有している。その一つは地域社会の人々に埋蔵文化財の実体を伝え、その保護への認識を深めていただくことであり、他の一つは考古学研究者にとって満足しうる資料を提供することである。両者は決して別個に扱われるものではなく一体化されるべきものである。なぜなら、埋蔵文化財は過去とのつながりのうちに生き、未来を指向しようとする人々すべてに、同等な価値をもって、かかわるべきものと考えるからである。

本書は、この認識を踏まえて編集したつもりであるが、なお意を十分に尽くしえないものとなつた。

本書の作成にあたって使用した図版のうち、第18図は九州大学医学部水井昌文博士の撮影にかかり、第17図は龜井勇氏撮影原版を水井博士が複写されたものである。また、第11・13図はそれぞれの調査団提供によるもので、航空写真はR.K.R毎日の援助を受けた。他は中原、石井、塩屋などによるものである。遺物の実測、写真撮影に協力いただいた各位に対して深謝の意を表したい。なお、本書の原稿は塩屋が執筆したものである。(塩屋)

福岡市埋蔵文化財遺跡地名表第2集

誤字訂正表

頁	行数	誤字	訂正
目次	第2図	小観岡	傍瞰岡
9	第7図	小観岡	傍瞰岡
9	第11図	C-8	C-5
3	第2図	小観岡	傍瞰岡
6	第7図	小観岡	傍瞰岡
10	対照番号 748	脱字 (遺跡の性質)	散布地
17	対照番号 730	脱字 (地形)	低台地
17	対照番号 732~737	脱字 (地形)	低台地
17	対照番号 740	細形銅劍(3)	細形銅劍(4)
17	対照番号 746	脱字 (地形)	微高地
17	対照番号 748	脱字 (地形)	微高地
24	文献番号 ④	銀錠	銀錠

訂正

※対照番号809は欠番である。

※埋蔵文化財分布地図の対照番号808・809の記号は無いものとし

808番については最終報告において記入したい。

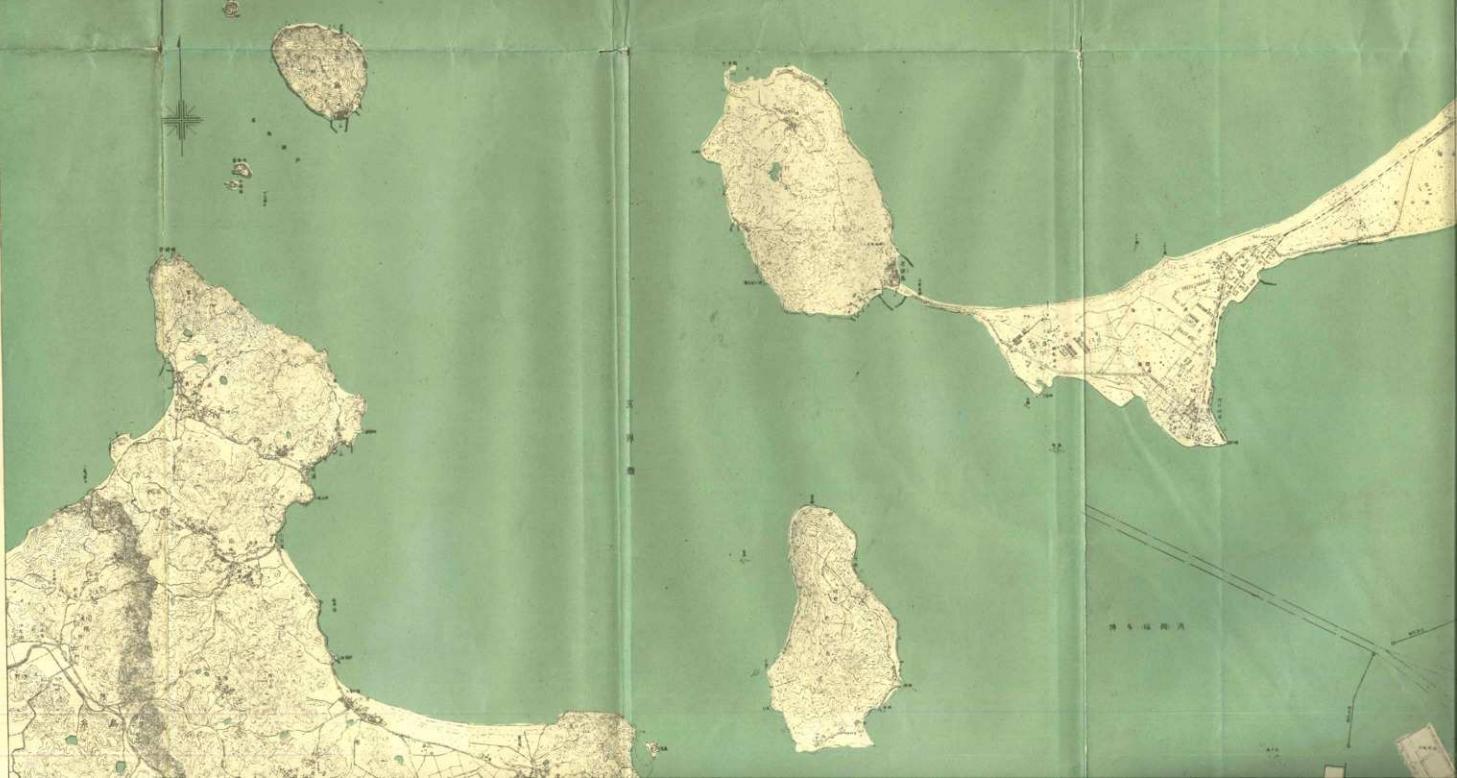
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第9集

昭和45年3月31日

編集 発行 福岡市教育委員会

印刷 青柳工業株式会社

福岡市（中部地域）埋蔵文化財分布地図



部地域) 埋蔵文化財分布地図

